

第13回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

問題・課題総合評価シート及び「耳川通信簿」

目 次

○問題・課題評価シート【山地領域】	1
○問題・課題評価シート【ダム領域】	2
○問題・課題評価シート【河道領域】	3
○問題・課題評価シート【河口・海岸領域】	4
○各領域の総合評価（令和5年度）	5
○耳川流域全体の総合評価（令和5年度）	6
○「耳川通信簿」耳川流域全体（令和5年度）	7

令和6年7月22日

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	11.裸地面積	3	主	至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	A	b	△	事務局案で了承する。 伐採後適切に植林は実施されているのか。 →現状100%近い植林が実施されているが、今後高齢化等による影響が懸念されている。	A	b	△	
		12.ダム堆砂	5	主	至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	C	b		事務局案で了承する。	C	b		
		5.河道縦横断	7	主	状態は基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	-	b		事務局案で了承する。 13km(滝下地区)地点で、河積の変化率が高くなっている原因は何か。 →河道の形状によって、土砂のたまり方に影響を与えた可能性がある。	-	b		
		25.土砂除去量 (河道・河口海岸)	14	主	状態は基準年の変動幅を上回ることから「悪い状態」と評価される。	-	c		事務局案で了承する。	-	c		
		30.ヒアリング	15		森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。 裸地面積の評価項目では良い評価になっているが、ヒアリングでは悪い評価となっているのはなぜか。 →裸地面積の評価は画像で定量的に評価しているが、ヒアリングは個人で感じるものになるため、評価に違いが出ることもある。	C	c		
	(2)土石流等の土砂災害の発生状況	14.土石流危険渓流整備 (土砂災害発生状況)	18		(参考:令和4年度評価) 土砂災害発生件数が至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	C	a	△	事務局案で了承する。 災害の発生状況について良い状態と評価されているが、浸水被害が出ている状況を踏まえると、良い状態という評価は違和感がある。 →裸地面積の評価は山での土石流なので、浸水被害は評価されていない。良い状態という言い方に違和感があるという点については今後の評価の参考とさせていただきます。 ※WG後、令和5年度データで再評価	B	a	○	
		15.保安施設整備 (土砂災害発生状況)	18										
	(3)自然景観	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地の方向性は、至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、森林管理者へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c	△	事務局案で了承する。	A	c	△	
		17.写真観測(親水景観)	21		前年度と比較して、一部地点を除き大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートの全体の平均は2.7点となり、総合的に「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。	B	a		
		30.ヒアリング	28		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		ヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c	×	事務局案で了承する。 アユを捕食するカワウが増えてきており、魚類が減ってきている。	C	c	×	
	(5)産業基盤の状況	11.裸地面積	34		至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	A	b	△	事務局案で了承する。 (生物生息生育環境の変化)、 砂防施設容量で「悪化傾向」、 土砂除去量、ヒアリング(自然景観)、 漂着物量で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目で概ね「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。	事務局案で了承する。	A	b	△
		27.流木処理実績	35		状態は、基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a		事務局案で了承する。	-	a		
		26.漂着物量 (河道・河口海岸)	36		至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c		
		16.路網密度	37		(参考:令和4年度評価) 耳川計画区で微増していることから「改善傾向」と評価される。『第八次宮崎県森林・林業長期計画』令和7年目標値(39.7m/ha)を上回っていることから「良い状態」と評価される。	A	a		事務局案で了承する。 ここで評価している路網には、管理基準がない小規模な作業道は入っていないのではないか。また、管理道と作業道を使い分けられたらどうか。 →一部の撤出路等は集計されていないものの、伐採パトロールを実施するなど適切に管理されるようにしている。使い分けについては、管理基準に則った作業道も存在し使い分けは難しい。	A	a		
30.ヒアリング		38		山林及び作業道の管理について、森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	事務局案で了承する。		B	b			
(6)湧水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△		
(7)洪水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△		
(8)砂防施設容量	23.写真観測(砂防施設)	50		前年度と比較すると、余裕率が若干減少していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、水通し天端の上まで堆積していないことから「良い状態」と評価される。	C	a	△	事務局案で了承する。	C	a	△		

着色凡例

黄色	: 治水面(防災面)
水色	: 利水面(水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
△:普通のレベル
×:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度	12.ダム堆砂	2		ダム貯水池末端部の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。 西郷ダム付近では水害があったのに普通状態なのはなぜなのか。 →この項目では堆砂による背水があったかどうかを判断基準としており、西郷ダムにおいてダム堆砂を原因とする背水が起こっていないことから普通状態としている。 ※WG後、評価方法を見直して再評価	C	b	×
	(10)利水容量	12.ダム堆砂	13		利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。 利水容量の減少による生物への影響はあるのか。 →多少は影響しているかもしれないが、利水容量の減少という項目からは生物への評価は難しい。	B	c	×
	(11)取水機能の維持	12.ダム堆砂	20		取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a	○	事務局案で了承する。 ダム堆砂の方向性評価は、諸塚ダム以外は改善傾向でもよいのではないかと。 →評価手法に基づいて実施することが重要であることから、評価は維持させていただきたい。 ダム上流側で堆積が進んでいるのにa判定なのはなぜか。 →取水に影響を与える堤体付近では岩屋戸ダム以外堆積が進行していないことからa評価としている	B	a	○
	(12)放流設備機能の維持	27.流木処理実績	27		基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○	事務局案で了承する。 流木の処理実績は良い状態となっているが、上椎葉ダム上流の左岸側は、残存している流木が多数ある。	-	a	○
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	-	-					
	(13)利水設備機能の維持	27.流木処理実績	27		基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○	事務局案で了承する。	-	a	○
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	-	-					
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		椎原橋において至近3か年を上回る濁水長期化日数を示していることから「悪化傾向」と評価される。出水時の濁水長期化の目安の期間(2~3週間:10度以下)の範囲を上回っていることから、濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×	事務局案で了承する。 水質調査を諸塚ダムより上流で行っているのか。 →通砂の影響を把握することを目的としていることから、上流では水質調査を行っていない。	C	c	×
		6.魚類	39		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c					
		7.底生動物	42		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-					
		8.付着藻類	44		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-					
		30.ヒアリング	46		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-					
		6.漁獲量(内水面)	47		漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁獲量の状態は、漁協ヒアリングの結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	C	c					
	(15)生物生息空間の連続性	2.河床材料	50		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリング結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。	B	c	×
		6.魚類	52		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c					
7.底生動物		54		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-						

【ダム領域目標】
土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。

ダム領域評価:『△』

【評価コメント】
令和5年度は、水質、ヒアリング(漁獲量(内水面))に関して「悪化傾向」、また水質、ヒアリング(漁獲量(内水面)、河床材料、魚類)で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

黄色	: 治水面 (防災面)
水色	: 利水面 (水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2	付着藻類(出水時)は、出現種数及びクロロフィルaは至近3回の調査結果の変動の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。付着藻類の状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。	B	c	×	
		30.ヒアリング	5	ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	7	河川景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	大内原ダム下流は、土砂堆積や河岸浸食により、河川景観が悪くなっている。 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(状態評価a→b)	B	b	△	
		17.写真観測(親水景観)	7	親水景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a			B	b		
	(18)生物生態環境の変化	1.水質	31	出水時の流量規模別濁度は、立石橋、八重原大橋で至近3年間(令和2年度、令和3年度、令和4年度)の変動幅を下回るが、濁水長期化の傾向を示していることから、水質は「悪化傾向」と評価される。水質の濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×	事務局案で了承する。	C	c	×	
		2.河床材料	37	河床材料は、各河川区間ともに大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。 西郷ダムの下流は岩が出ていて、細かい石がまだない箇所が多く、通砂の効果は見られない。	B	c		
		4.河道形状	39	河道形状は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「改善傾向」と評価される。状態は、瀬と淵の合計数から「普通状態」と評価される。	A	b		事務局案で了承する。 R4出水では川の土砂は溜まらなかったが、R5出水では和田橋下流で土砂が溜まり瀬淵の状況が変わった。	A	b		
		6.魚類	43	アユやカマツカの個体数については、アユは福瀬小学校前、カマツカは東郷橋にて既往最大を記録したものの、その他地点ではほとんどが至近3年間(2020年度～2022年度(令和2年度～令和4年度))の変動幅の範囲内であること及びアユの産卵床についても同様の傾向であることから、「維持傾向」と評価される。状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。 R4、R5はアユの漁獲量が減っている。川の濁りの影響で、アユの餌となる藻類が石についていない。土砂が大きな石の間に溜まって、ウナギの息が減っている。土砂が堆積したことで、アユを含めて生態系に影響を及ぼしていると考えられる。	B	c		
		7.底生動物	49	地点により、種数及び個体数の変動や造網型指数の低下傾向が確認されたものの、全体でみると至近3回と概ね同程度かやや増加傾向であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	-		事務局案で了承する。	B	-		
		8.付着藻類	51	2023年度(令和5年度)は、台風6号出水後、細胞数は濁水の影響によりほとんど増加していないが、出現種数及びクロロフィルaは至近3回の調査結果と同程度まで増加していることから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、全ての漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c		
		9.河岸植生	52	前回調査からツルヨシ群落が大きく減少し、自然裸地が増加していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、全ての漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C	c		
		29.水質、底生動物	54	方向性は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、平均点が3.83点であることから「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。 「五感を使った簡易検査」について、大人も参加できるようにしていく。	B	a		
		30.ヒアリング	56	ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		6.漁獲量(内水面)	57	(参考:令和4年度評価)方向性は、至近3年間(令和元年度～令和3年度)と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C	c		
	(19)瀬・淵の状況	4.河道形状	60	瀬・淵の数は、至近3年間の変動幅を上回ることから、「改善傾向」と評価される。令和5年度の早瀬と淵の数は、基準値の50%増減幅内であることから「普通状態」と評価される。	A	b	○	事務局案で了承する。	A	b	○	
	(20)橋脚の安定性	5.河道縦横断	62	状態は、橋脚部が洗掘されている東郷橋及び八重原橋では洗掘対策が講じられており、安全性に関して大きな問題はないと考えられることから「普通状態」と評価される。	-	b	△	事務局案で了承する。 事務局案で了承する。	-	b	△	
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	62	橋脚基礎の状況に大きな変化は見られず、安全性に関して大きな問題はない。	-	-						
	(21)護岸基礎部の安定性	5.河道縦横断	67	横断測量及び写真の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	-	b	△	事務局案で了承する。 事務局案で了承する。	-	b	△	
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	67	護岸基礎部の状況に大きな変化は見られず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-						
	(22)取水の安定性	1.水質	73	水質の方向性は水道原水のpHは至近3年間の変動幅の範囲内、濁度は至近3年間の変動幅を下回ることから「維持傾向」と評価される。状態は、設定した基準値の範囲内にあることから「良い状態」と評価される。濁度の状態は、設定した基準値の範囲内にあることから「良い状態」と評価される。	B	a	△	事務局案で了承する。	B	a	△	
		5.河道縦横断	74	富島幹線用水路は、大きな変化は見られないが、前年度同様、ポンプアップによる取水を行なっていることから「悪い状態」と評価される。	-	c		事務局案で了承する。 R4.9出水に伴う土砂堆積により水位が増し、ポンプアップの必要がなくなっている。 但し、取水口の中に土砂や流木が溜まることあり、その度に除去を行っているため、安定した取水が行われている訳ではない。	-	c		
		24.写真観測(取水口堆砂状況)	74	取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-		-	-			
	(23)治水安全度	5.河道縦横断	77	横断測量及び写真観測の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	-	b	△	事務局案で了承する。 令和4年度以降は土砂の移動により河床の変動が大きくなっている。 河道掘削後の残土処理をする場所がないため、処理した土砂の有効活用を進めて欲しい。	-	b	△	
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	84	河川状況や構造物基礎の状況の大きな変化は見られない。	-	-			-	-		
(24)氾濫発生時の被害状況	31.水害統計資料	101	台風6号により河川の浸水被害が発生しなかったことから「維持傾向」と評価される。状態は、浸水被害発生の可能性がある流量(過去に浸水被害が発生した平成19年度最大日流入量)と同等の流入量であったが、浸水被害は発生しなかったことから「良い状態」と評価される。	B	a	○	事務局案で了承する。 河川の掘削を定期的に行っているため、浸水被害が発生しなくなった。 人家の被害が減っていることに着目しているが、農地での被害は発生している点については、留意していただきたい。	B	a	○		
	20.写真観測(洪水時流下状況)	102	台風6号洪水時に一部流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-			

着色凡例

黄色	: 治水面(防災面)
水色	: 利水面(水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
△:普通のレベル
×:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河口・海岸領域	(25) 生物生態生育環境の変化	1. 水質（海域：出水時）	3	概ね至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c	△	事務局案で了承する。 出水時の海域の濁りの状態が悪く長期間続いた。中流域の土砂崩れの影響があるのではないかと。	B	c	△	
		3. 底質（海域：出水時）	7	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。化学分析結果が全項目において汚れの目安以下であることから「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。	B	a		
		6. 漁獲量（海域）	9	至近3年間の変動幅を下回ることから、「悪化傾向」と評価される。状態は日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	C	c		事務局案で了承する。 濁水の長期化により藻場やイセエビなどの漁場環境が悪くなっている。	C	c		
		6. 漁獲量（内水面）	9	至近3年間の変動幅を下回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、一部の漁協から「悪い状態」の回答を得た。（参考：方向性は令和4年度評価）	C	c		事務局案で了承する。 5月にアユを放流しているが、濁水の長期化によりアユの生育状況が悪かったため、10月に子持ちアユの放流を実施した。	C	c		
		7. 底生動物（海域：出水時）	11	概ね至近3年間の調査結果の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。	B	-		事務局案で了承する。	B	-		
		10. 藻場（海域）	13	至近3年間と比較して分布・密生範囲が拡大したことから、「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b		事務局案で了承する。 藻場の状態評価は普通状態となっているが、出水で流れてきたシルトによって、海藻類の生育状況が悪くなっている可能性があるため、注視していただきたい。	A	b		
	(26) 防災機能の維持	28. 航空写真（汀線比較）	20	至近3回（平成26～28年）ならびに基準年と比較すると増加していることから「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。（参考：平成30年度評価）	A	a	○	事務局案で了承する。	A	a	○	
	(27) 親水空間の確保	17. 写真観測（景観・親水）	23	令和4年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-	○	事務局案で了承する。	-	-	○	
		28. 航空写真（汀線比較）	25	至近3回及び基準年と比較すると増加していることから、「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。（参考：平成30年度評価）	A	a	○	事務局案で了承する。	A	a	○	
	(28) 港湾施設の機能維持	25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	28	状態は、基準年の変動幅を上回ることから「悪い状態」と評価される。	-	c	×	事務局案で了承する。 出水後は潮が引くと底が見えるくらい土砂が堆積し、大きい船が沖に出られなかった。海域の堆積状況を見ると令和5年度は相当な土砂が流出したと思われる。	-	c	×	
	(29) 治水安全度	5. 河道縦横断	31	基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	-	a	○	事務局案で了承する。	-	a	○	
	(30) 船舶の航行（操業上）の安全確保	5. 河道縦横断	36	確保率は96%であり、100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	-	c	×	事務局案で了承する。	-	c	×	
		25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	37	状態は、基準年の変動幅を上回ることから「悪い状態」と評価される。	-	c		事務局案で了承する。	-	c		
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	38	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		21. 写真観測（海域漂流状況）	39	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	39	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	40	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」の回答を得た。	B	c		事務局案で了承する。	B	c		
		30. ヒアリング	41	日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答であった。	C	c		事務局案で了承する。	C	c		
	(31) 海岸環境の変化	22. 写真観測（海岸漂着状況）	44	台風6号発生後、写真観測ではほとんど流木の漂着は見られなかったが、漁協ヒアリングにおいて流木の漂着を確認した。	-	-	×	事務局案で了承する。	-	-	×	
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	45	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった。	B	c		事務局案で了承する。	B	c		
	(32) 漁業の操業環境	26. 漂着物量（河道・河口海岸）	48	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c	×	事務局案で了承する。	B	c	×	
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	49	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	50	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		6. 漁獲量（海域）	51	至近3年間の変動幅を下回ることから、「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	C	c		事務局案で了承する。	C	c		
	(33) 氾濫発生時の被害状況	30. ヒアリング	52	漁協ヒアリングの結果「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答を得た。	C	c	○	事務局案で了承する。	C	c	○	
31. 水害統計資料		54	令和5年度台風6号では、浸水被害発生の可能性がある流量（過去に浸水被害が発生した平成19年度最大日流入量）を同等の流入量があったが、浸水被害が見られなかったことから「維持傾向」、「良い状態」と評価される。	B	a	事務局案で了承する。		B	a			
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	55	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-	事務局案で了承する。	-	-	○		

【河口・海岸領域目標】
水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。

河口・海岸領域評価：『△』

【評価コメント】
令和5年度は、漁獲量、ヒアリング（漁獲量・漁業の操業環境）に関して「悪化傾向」、また土砂除去量、ヒアリング（漁獲量・漁業の操業環境）に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

	: 治水面（防災面）
	: 利水面（水利用面）
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A：改善傾向、B：維持傾向、C：悪化傾向
【状態】 a：良い状態、b：普通状態、c：悪い状態

評価凡例

○：問題なく良いレベル
△：普通のレベル
×：問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

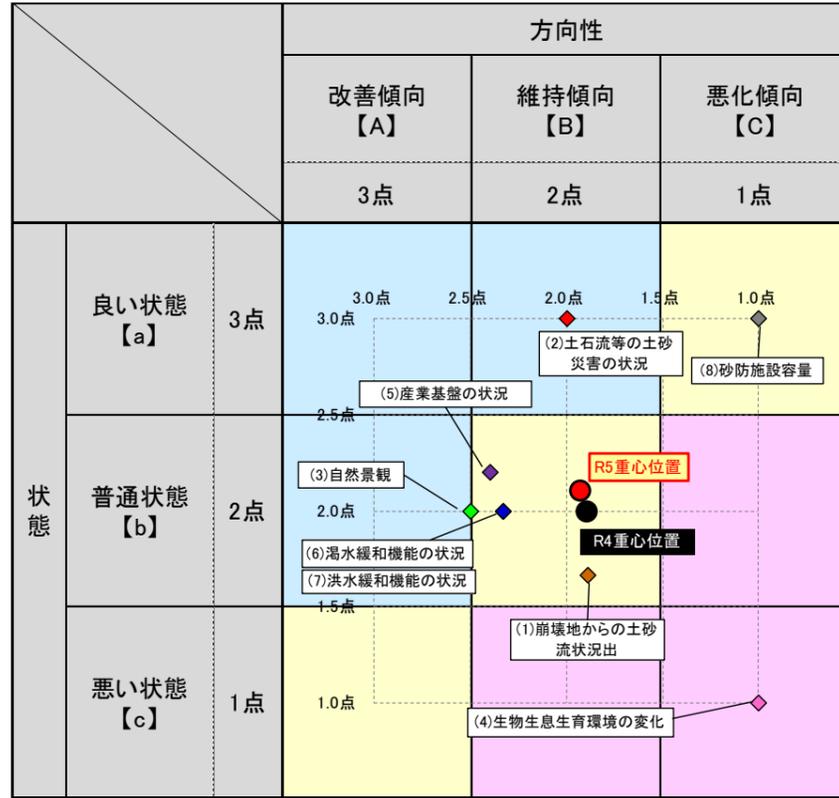
「耳川通信簿」 耳川流域全体（令和5年度）

資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	R5		R4		R3		事務局評価	領域の評価				評価改善委員会の評価
			評価	得点	評価	得点	評価	得点						
資料④-1	山地領域	(1) 崩壊地からの土砂流出状況	△	1	×	0	△	1	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 山地領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和5年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和4年度を上回る得点率ではあるものの、令和3年度が「良いレベル○」と評価されていることから、台風14号の被災後、現地環境が回復されていないと考えられる。 総合土砂管理上の問題・課題では、(4)生物生息生育環境の変化の評価が「悪いレベル×」であることから、引き続き注視していく必要があると考えられる。	山地領域	R5	R4	R3	○ △ ×
		(2) 土石流等の土砂災害の発生状況	○	2	△	1	○	2		問題・課題の数	8	8	8	
		(3) 自然景観	△	1	△	1	○	2		配点	16	16	16	
		(4) 生物生息生育環境の変化	×	0	△	1	△	1		得点	8	7	11	
		(5) 産業基盤の状況	△	1	△	1	△	1		得点率	50%	44%	69%	
		(6) 湧水緩和機能の状況	△	1	×	0	△	1		得点率の評価	△	△	○	
		(7) 洪水緩和機能の状況	△	1	△	1	△	1						
		(8) 砂防施設容量	△	1	○	2	○	2						
資料④-2	ダム領域	(9) 貯水池末端部治水安全度	×	0	×	0	△	1	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ダム領域の得点率は43%であり、得点率の評価から令和5年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和4年度と同じ得点率であるものの、令和3年度を下回っており、台風14号の被災後、現地環境が回復していないと考えられる。 総合土砂管理上の問題・課題では、(9)貯水池末端部治水安全度(10)利水容量及び(14)生物生息生育環境の変化、(15)生物生息空間の連続性の評価が「悪いレベル×」であることから、今後、改善に向けて重点的に取り組みが必要と考えられる。	ダム領域	R5	R4	R3	○ △ ×
		(10) 利水容量	×	0	△	1	△	1		問題・課題の数	7	7	7	
		(11) 取水機能の維持	○	2	△	1	△	1		配点	14	14	14	
		(12) 放流設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点	6	6	7	
		(13) 利水設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点率	43%	43%	50%	
		(14) 生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	△	△	
資料④-3	河道領域	(16) 付着藻類の変化	×	0	×	0	×	0	【河道領域目標】 適切な河道管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 河道領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和5年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和3年度及び令和4年度を上回る得点率であり、現地環境が改善してきていると考えられる。 総合土砂管理上の問題・課題では、(16)付着藻類の変化及び(18)生物生息生育環境の変化が「悪いレベル×」であることから、今後、改善に向けて重点的に取り組みが必要と考えられる。	河道領域	R5	R4	R3	○ △ ×
		(17) 河川景観の変化	△	1	△	1	△	1		問題・課題の数	9	9	9	
		(18) 生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		配点	18	18	18	
		(19) 瀬・淵の状況	○	2	×	0	×	0		得点	9	3	6	
		(20) 橋脚の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率	50%	17%	33%	
		(21) 護岸基礎部の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率の評価	△	×	×	
		(22) 取水の安定性	△	1	×	0	△	1						
		(23) 治水安全度	△	1	×	0	△	1						
資料④-4	河口・海岸領域	(25) 生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	△	1	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 河口領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和5年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和4年度を上回る得点率ではあるものの、令和3年度を下回っており、台風14号の被災後、現地環境が回復していないと考えられる。 総合土砂管理上の問題・課題では、(28)港湾施設の機能維持及び(30)船舶の航行(操業上)の安全確保、(31)海岸環境の変化、(32)漁業の操業環境が「悪いレベル×」であることから、今後、改善に向けて重点的に取り組みが必要と考えられる。	河口・海岸領域	R5	R4	R3	○ △ ×
		(26) 防災機能の維持	○	2	○	2	○	2		問題・課題の数	9	9	9	
		(27) 親水空間の確保	○	2	○	2	○	2		配点	18	18	18	
		(28) 港湾施設の機能維持	×	0	×	0	△	1		得点	9	7	10	
		(29) 治水安全度	○	2	○	2	×	0		得点率	50%	39%	56%	
		(30) 船舶の航行(操業上)の安全確保	×	0	×	0	△	1		得点率の評価	△	×	△	
		(31) 海岸環境の変化	×	0	×	0	△	1						
		(32) 漁業の操業環境	×	0	×	0	△	1						
		<h2 style="margin: 0;">総合評価</h2>	【耳川水系目標】 耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和5年は、山地領域・ダム領域・河道領域・河口・海岸領域が普通レベルであり、耳川水系全体として、総合的に普通のレベル「△」と評価される。令和4年度の台風14号の被災から、山地領域および河道領域、河口・海岸領域において回復傾向が見られるものの、ダム領域では依然得点率は低い状況となっている。 各領域において悪い評価の問題・課題については、今後もモニタリングを継続しながら、改善に向けて各種行動計画を推進していく必要がある。						耳川水系	R5	R4	R3	○ △ ×	
						問題・課題の数	33	33	33					
						配点	66	66	66					
						得点	32	23	34					
						得点率	48%	35%	52%					
						得点率の評価	△	×	△					

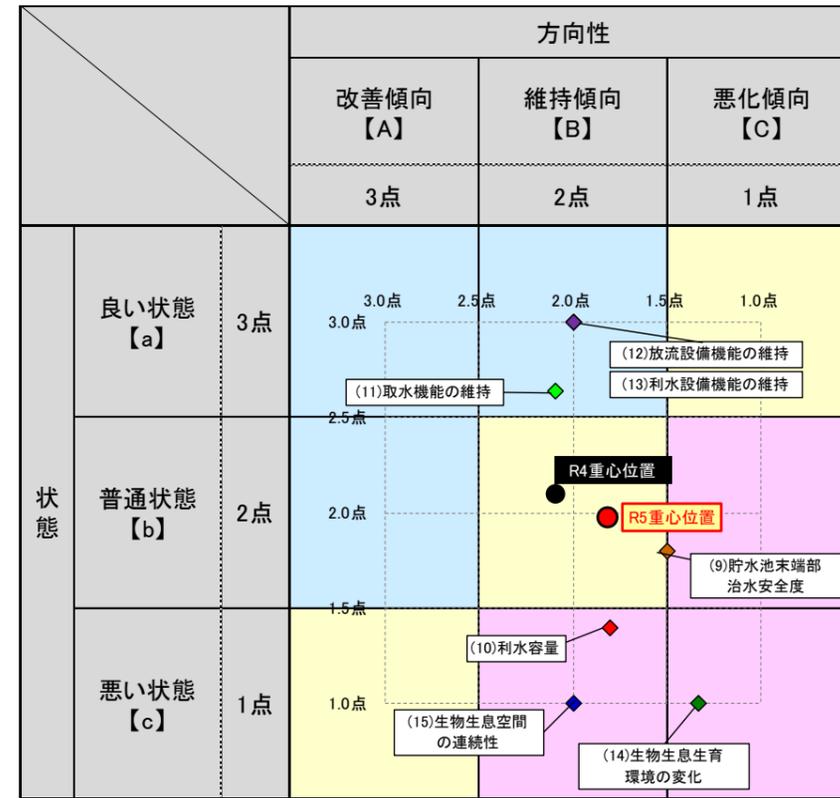
着色凡例
 : 治水面（防災面）
 : 利水面（水利用面）
 : 環境面

課題評価の凡例
 ○: 問題なく良いレベル
 △: 普通のレベル
 ×: 問題があり悪いレベル

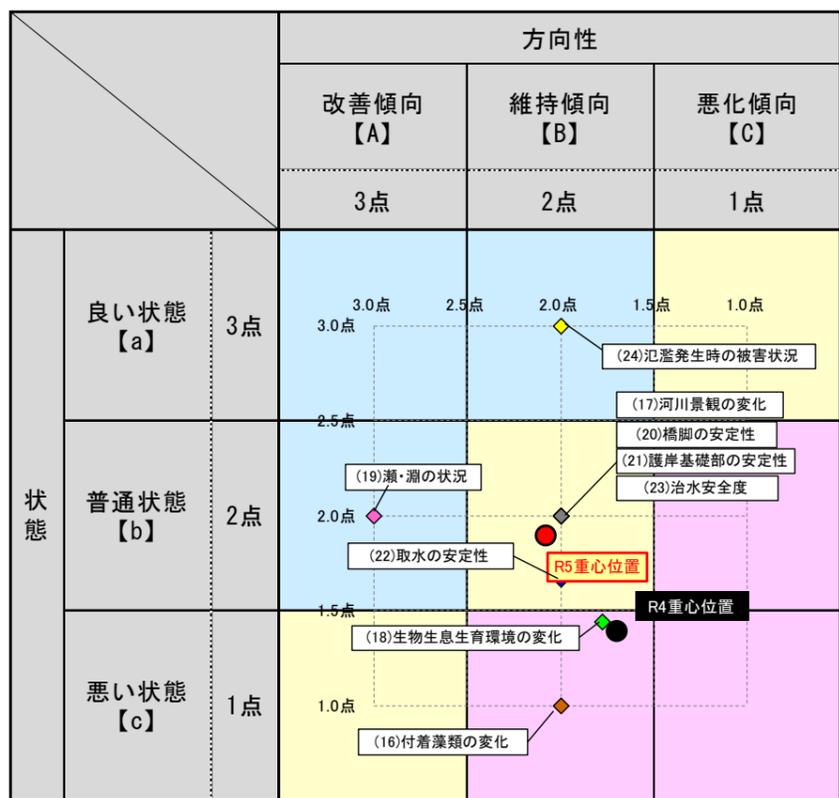
山地領域の総合評価（令和5年度）



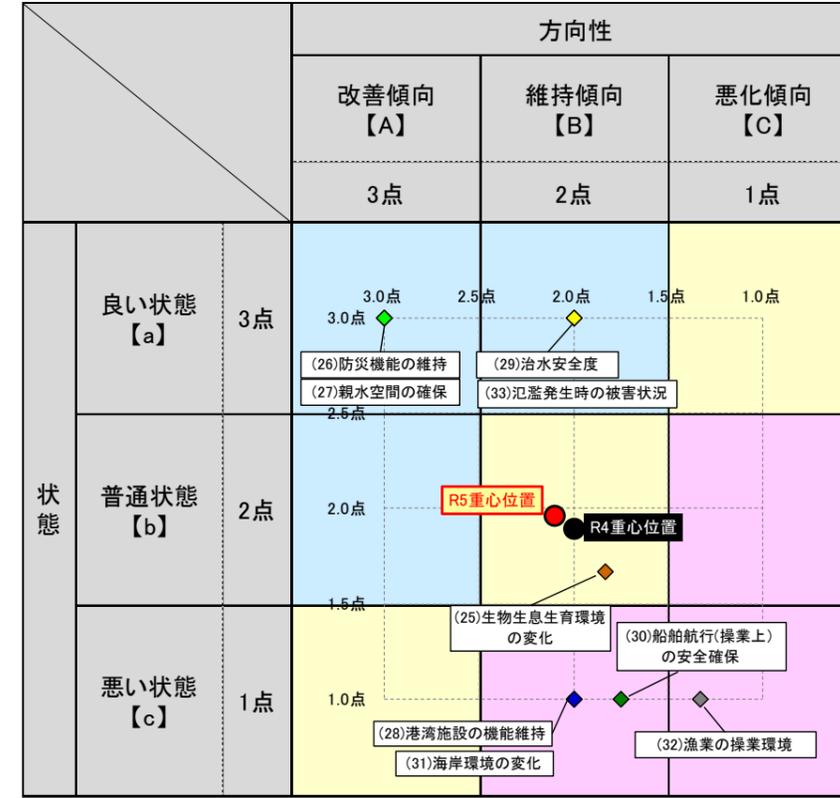
ダム領域の総合評価（令和5年度）



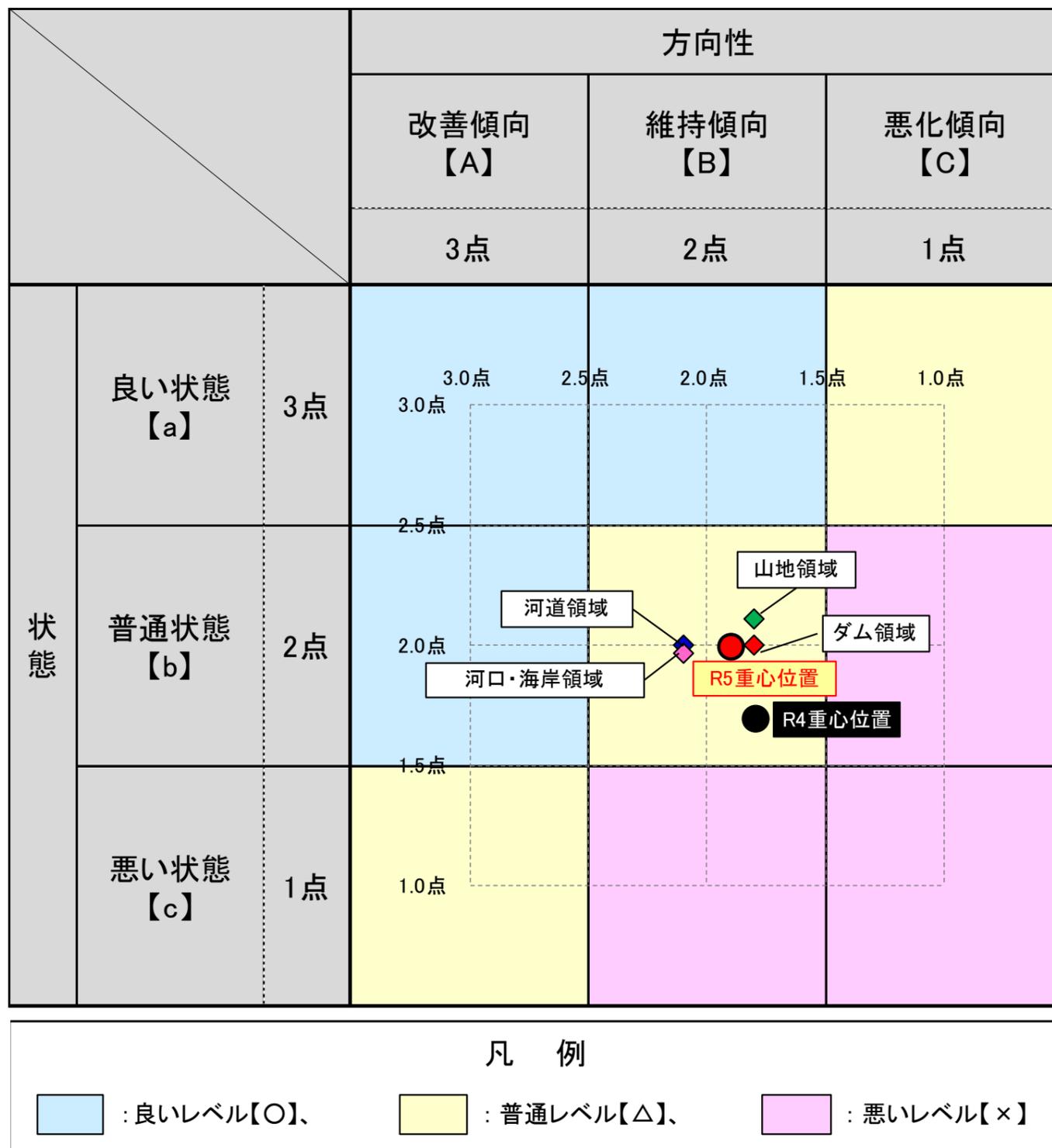
河道領域の総合評価（令和5年度）



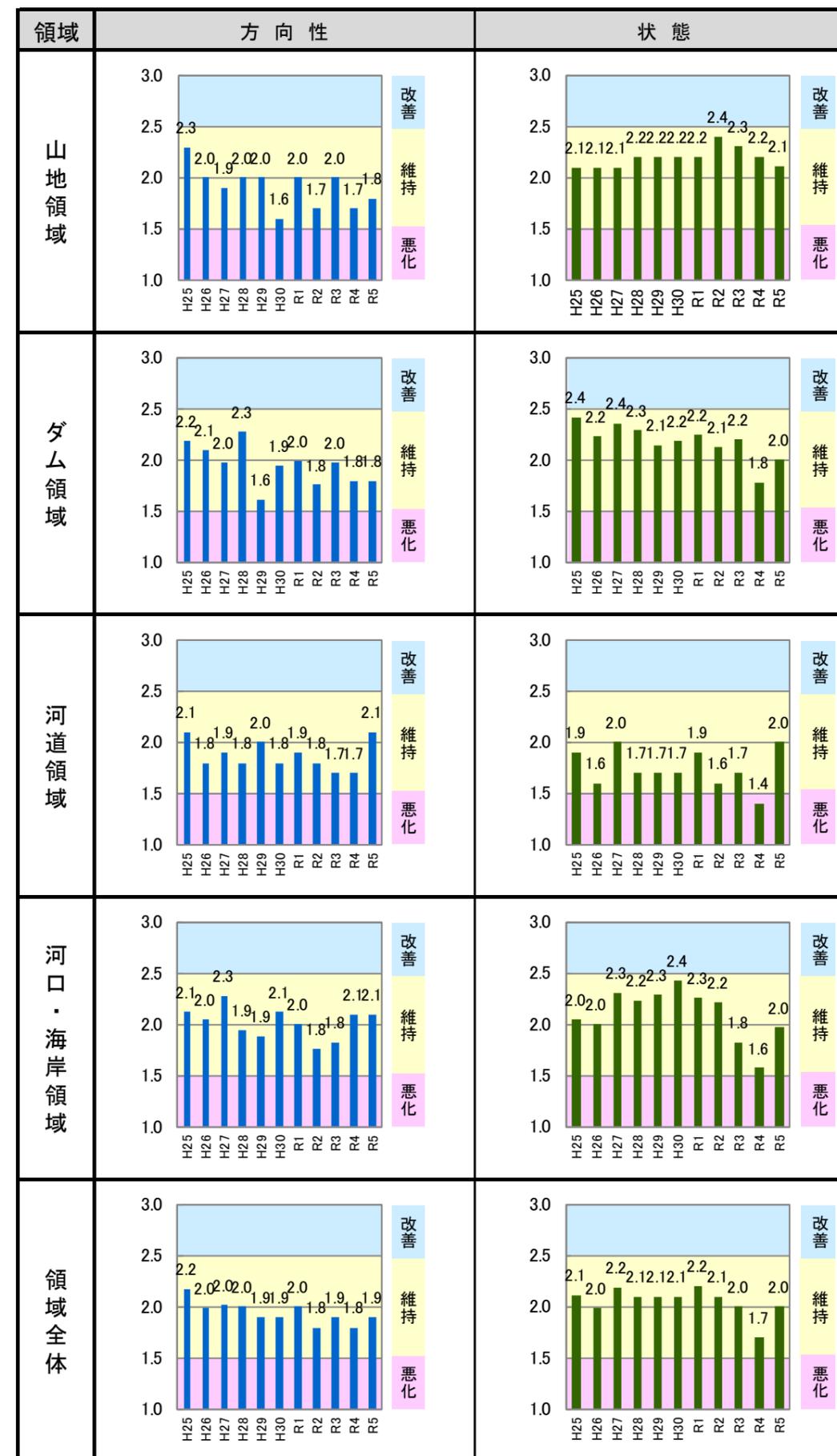
河口・海岸領域の総合評価（令和5年度）



耳川流域全体の総合評価（令和5年度）



注1) グラフは領域ごとの評価結果をプロットしている。
 注2) 重心位置は、これらの評価結果の総合的な位置付けを示したものである。



注) 評価手法を改良しているモニタリング項目があるため、正確に経年変化を捉えていないケースがある。